

第20回長野市公共施設適正化検討委員会 議事要旨	
開催日時	平成28年12月27日(火) 14:00~16:10
場 所	長野市役所第一庁舎5階 会議室151
出席者	[委員] 松岡委員長、神田副委員長、太田委員、片山委員、清水委員、 中屋委員、西堀委員、西村委員 [事務局(行政管理課)] 小川総務部長、丸山行政管理課長、 村上行政管理課長補佐兼公共施設マネジメント推進室長、 大塚行政管理課長補佐、渡辺行政管理課係長、竹内行政管理課主事 [事務局支援] 一般財団法人長野経済研究所：折井研究員
議 事	(1) 公共施設等総合管理計画(素案)について (2) 公共施設マネジメント推進の状況(市民合意形成の取組)について

【次 第】

- 1 開 会
- 2 委員長あいさつ
- 3 議 事

【審議事項】

- (1) 公共施設等総合管理計画(素案)について
- (2) 公共施設マネジメント推進の状況(市民合意形成の取組)について

- 4 閉 会

【開 会】

委員長あいさつ

〔松岡委員長からあいさつ〕

議 事

- (1) 公共施設等総合管理計画(素案)について
- (2) 公共施設マネジメント推進の状況(市民合意形成の取組)について

〔資料1-1,2、資料2について事務局より説明〕

委 員 第7章の公共施設再配置計画の方向性がすべて実現した場合には、どれくらいの縮減になるのか。

事 務 局 新しく整備する施設や、廃止しても転用する施設も含まれており、ざっくりとした数字であるが、廃止や譲渡の方向性を示している施設の面積を足しあげると、全体の4%程度になる。また、こちらに記載の施設全ての面積を足しあげると、全体の10%程度となる。

委 員 資料1の82Pなどに行程表が示されており、多くの施設は検討期間が3年で区切られているが、その期間ですべて方向性を出すということでのよいのか。

事務局 長期間の検討を要する施設もあるが、基本的には3年ごとに検討段階での進捗管理を行っていきたいと考えている。3年以内には大きな方向性を決定し、前倒しできるものは前倒しして行っていく。

委員長 高齢者施設を統廃合すると、距離が遠くなって通う手段がなくなってしまうことも考えられる。その点についてはどう考えているか。

事務局 芋井地区でワークショップをやった際にもそうだったが、公共施設の話と公共交通の話は切り離せない問題である。各地区でワークショップを行う段階から、交通についても一緒に検討していく。

委員 長寿命化をすべきかすべきでないかという判断基準みたいなものはどこかに掲載されているか。

事務局 52Pにおいて、1981年の新耐震基準以前に建てられた施設については、原則長寿命化は行わないなどの方針を掲げている。また、47Pで「今後も使い続ける施設の長寿命化」といった記載がある。最終的には、それぞれの施設の状況や特性に応じたケースバイケースで検討・判断をしていくことになる。

委員 47Pの「今後も使い続ける施設」と聞くと、誰がいつ決めたのかと私自身は疑問に感じる。この部分の表記は、受け手に誤解を与えないような表記に変更すべきである。

事務局 基本的には、老朽化の度合いやコストを中心に検討していくことになるが、地区のしての意見・要望もあるので、ここで一概に表記することは難しい。議論を重ねた上で使い続けるとした施設について、なるべく長寿命化をしていくということである。

委員 この総合管理計画のキーワードは、「選択と集中」である。市長も記者会見の中で、「サンセット化（時限化）」という言葉を使っている。今後どこかで見切りをつけなければならない場面も出てくるであろうし、見直す時期もやってくる。パブコメなどで市民の意見を取り入れながらも、コアの部分で市の方針をきちんと詠っていくべきである。

事務局 施設の長寿命化は、財政負担の軽減と平準化を図ることが一番の目的である。お金をかければ長寿命化できるだろうが、それでは目的が達成できなくなってしまう。ご指摘のとおり、どの施設を長寿命化するのかについては、財政負担の軽減と平準化を念頭に置きながら、最も合理的な計画を立てていきたいと考えている。

委員 公共施設の維持管理は行政だが、利用するのは市民であって、市民にとってどういう配置がいいのかを第一に考える必要がある。ただ、この総合管理計画の大前提は、「将来世代に負担を先送りしない」ことである。残してほしいと要望があっても、利用がなければ維持はできないので、少し違う視点から、施設利用を促す方策も考えていくべき。

委員 資料1-2について、長野市が今後どのように変わっていくのかという将来像が見えてこない。本文に書いてある「長野市総合計画」や「都市計画マスタープラン」の

中身も分からない。さらにイラストなども加えて、将来が楽しみだと思えるような中身にしていただきたい。

事務局 総合計画などについては、パブリックコメント実施にあたってホームページに公開する際に、リンクをはるなど工夫していきたい。また、長野俊英高校のご協力により作成したマンガ版の公共施設マネジメント指針もホームページに掲載していく。

委員 公共施設だけの縮減ではなく、長野市の将来のまちづくりの方向性とリンクさせていったほうがよい。以前から部局横断という話があるが、都市計画マスタープランなどとの連携はどんな状況なのか。

事務局 都市計画マスタープランの関係では、国でも推進している「小さな拠点」ということで、大岡地区をモデルに計画を進めている。コンパクトで効率的な都市機能、公共交通も含めたまちづくりという点では共通点が多いため、担当課とタイアップをする方向で協議を進めている。

【閉 会】